

学校教育目標		夢や希望をもって粘り強く挑戦し、新しい時代を切り拓いていく子どもを育成する。		重点目標	自ら学び基礎学力を身につけた児童の育成				
評価計画				自己評価		学校関係者評価		改善計画	
重点目標	目標達成のための方策（取組指標）	目指す児童の姿（成果指標）	評価	結果（成果○と課題△）		評価	コメント	次年度における改善策（案）	
重点目標	■ 楽しく基礎的・本業で徹底的に取り組む	既習を振り返らせたり、課題をもたせる問題提示の工夫をしたりしてズレに気づかせ、「めあて」をつくる場面を設定している。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	既習の学習内容と比較しながら、「なぜだろう」「やってみよう」等と追究意欲を高める子ども(銀水っ子アン4) 【目標値：児童アンケート3.1以上】	4	○ 昨年に引き続き、既習を振り返らせたり、課題をもたせる問題提示の工夫をしたりしてズレに気づかせたことで、「なぜだろう」「やってみよう」等と子どもの追究意欲を高めることができた。		A	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをつくることのできる子どもの育成は、今でも必要とされているので、そのような子どもが増えてきているのは、素晴らしいことだと思います。</li> <li>課題に対し疑問を持ち問題解決に意欲的に取り組むことは非常に大切と思う。社会に出てからも役立つことだと思いますので、引き続きこの教育を続けていってほしい。</li> <li>高学年のテスト結果(特に算数)を目標に少しでも近づけてほしい。</li> <li>本読みが大切。</li> <li>タブレットを上手に活用している先生・子ども達の姿が見られました。</li> <li>よく工夫されて授業をされている先生方の姿が、子ども達の理解につながっていると思います。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に問題解決する子どもを育てるために、ワクワクする導入、山場のある展開の工夫を進めていく。</li> <li>単元や学習内容に応じて、「説明」「質問」「意見を発表」するなどの表現力の育成を図る。</li> <li>学力低層層の状況とその要因を分析し、一人一人の課題に応じて、タブレット等を利用して補充学習等の指導を進めていく。</li> <li>読解力、豊かな情操を育てていくため学校図書館を活用した家庭への啓蒙を図りながら、読書活動を推進していく。</li> </ul>
		既習の考え方を振り返らせたり、自分が持った答えの見通しの根拠を明らかにさせたりしながら見直しを持たせ、問題解決に取り組ませる。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	課題を解決する際に、見直しをもち、多様な方法を用いて諦めずに自分の考えをつくる子ども(銀水っ子アンケート3・5・6) 【目標値：児童アンケート3.1以上】	4	○ 教師が①方法や考え方を振り返る工夫②根拠をもった答えの見直しをもたせる工夫③自分の見直しを自己決定する工夫の手立てを持って授業を行うことで、自分の考えをつくることのできる子どもが増えてきた。		A		
		つくった考えを指し示したり、色や線を使ったりしながら、式や数、図をつないで説明する活動をさせている。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	自分の考えを伝える時に、大切なポイント指し示したり、色や線を用いたりしながら説明することができる子ども(銀水っ子アンケート7) 【目標値：児童アンケート3.1以上】	3	○ 交流の段階で、自分の考えをつくり、図や式を指し示しながら相手意識を持って交流する子どもが増えてきている。 △ 考えを表現する価値を子ども達と共有し、表現する喜びを味わわせた		A		
		授業の中で、児童が達成感や成就感を味わうことができる振り返りの場面の設定や声かけを行っている。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	問題が解けたり、今までできなかったことができた時に、喜びを感じる子ども(銀水っ子アン1・9)【目標値：児童アンケート 3.1以上、国・算テスト平均85以上】	3	○ 見直しをもとに問題解決に取り組み、まとめを自分の言葉で書くことができる子どもが増えてきている。 △ 子ども達が、計算や公式の意味を既習の学習内容をもとに思考力を働かせながら見出していく過程を大切に授業づくりを大切にしていける必要がある。		A		
重点目標	■ iPadを使って、議題について必要な情報を調べさせたり、考えを交流させたりしながら課題を解決する学習活動を行わせている。【目標値：教師アンケート 3.0以上】	iPad等を使って、考えをつくらしたり、交流したりする楽しさを味わうことができる子ども(銀水っ子アン12) 【目標値：児童アンケート3.1以上】	4	○ 発達段階に応じて、タブレットを活用することで、児童も扱いに慣れタブレットを効果的に利用して自分の考えをつくらしたり、交流に生かしたりしている。		A			
		銀水の3つの宝を大切にすることを定着している子ども(銀水っ子アンケート19-21) 【目標値：児童アンケート3.1以上】	3	○ 特に元気なあいさつに重点を置いて、感謝の気持ちを相手に伝えることについて、繰り返し取り組んできたことで、定着が図られてきた。 △ さらに学校の宝として磨いていくための主体者意識を高めさせる。		B			
		日々の教育活動の中で、自分のことだけでなく、周りの人も大切に思い、一人ひとりを尊重する活動を設定している。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	困っている人がいたら進んで助ける子ども(銀水っ子アン22・23 保アン5) 【目標値：児アン3.1以上 保アン3.1以上】	4	○ 発達段階に応じて思いやり的心をもって実践する姿を目指してきたことで、困っている友達に優しく接したり、トイレのスリッパを進んで並べたりする等、他者を大切にする行動が増えた。		A		
		相手を大切にしたい学級づくりを目指し、児童が協力して課題を解決するための活動を設定している。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	学級の課題を話し合ったり協力したりしながら、課題解決に向けて活動し、役に立つ喜びを味わう子ども(銀水っ子アン15・17) 【目標値：児童アンケート3.1以上】	4	○ 日常生活や各行事において、しっかりとめあてをもたせ、達成するために、自分に何が出来るかを考え実践していくことで、みんなの役に立つ喜びを味わう子どもの姿にもつながった。		A		
重点目標	■ 道徳科学習や日々の教育活動を通して、きまりや約束の意義を理解させ、それを守るよう指導している。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	きまりや約束の意味を理解し、それを守る子ども(銀水っ子アンケート24 保アンケート7) 【目標値：児童アンケート3.1以上、保護者アンケート3.1以上】	3	○ 日々の学校生活や学校行事等を通して、きまりを守る意義を理解し、行動しようとする姿が定着しつつある。 △ 保護者アンケートの結果は、やや低い結果となり、学校内外、いつでも、どこでも実践できる子どもの姿を目指す。		A			
		自分のめあてを持って、友達と関わりながら様々な運動に取り組ませ、「できる」「分かる」楽しさを味わわせている。【目標値：教師アンケート 3.0以上】	他の児童と一緒に様々な運動に楽しく取り組む子ども(銀730・31・32 保713)【目標値：児73.0以上保73.0以上】 【目標値：新体力テスト DE群昨年値-α】	3	○ 様々な制限が緩和され、日常の体育科の授業を含めて、他の児童と一緒に運動に取り組む、関わり合う活動を増やすことができたことにより、より運動に親しむ児童が増えてきている。 △ 外遊びを好む子どもとそうでない子どもの二極化が見られる。		A		
		日常の教育活動を通して、交通ルールや危険な行動について理解させ、けがをしないように指導している。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	危険を察知し、けがを未然に防ぐことができる子ども 【目標値：校内での受傷件数を昨年度-10%】	3	△ 休み時間や体育の授業中に、なにげないことでけがをしたり、保健室へ入室したりする児童が増えている。自分の身は自分で守ることのできる児童の育成に向けて、安全指導を徹底していく。		A		
		日常の教育活動を通じて、食と健康の関係や食文化について理解させ、楽しい給食の時間となるよう指導している。【目標値：教師アンケート 3.0以上】	好き嫌いがなく、偏食をせずに給食を楽しくおいしく食べる子ども 【目標値：給食の残菜率を前年度比-0.2%】	4	○ 毎日の各学級における給食指導や給食委員会による献立紹介と食に関する放送が、食に関する興味・関心を高めることにつながっている。		A		
重点目標	■ ハンカチ・ちり紙を常備したり、手洗いをしたりする等、衛生面や安全面に気を付けて学校生活を送るよう指導している。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	保健室に入室した際に、けがや体調不良の原因を自分で振り返ることができる子ども(銀水っ子アンケート33・34) 【目標値：児童アンケート3.0以上】	4	○ 養護教諭の保健室を利用する一人一人に対するきめ細やかな声掛けや対応、学級における保健指導により、子ども達の健康への意識を高めることにつながっている。		A			
		互いのよさを認め合う学級風土を醸成するために、児童相互の理解を深める活動を設定したり、積極的によさを認め、褒めたりしている。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	お互いの個性を理解し、よさを認め合いながら助け合って学校生活を送る子ども。(銀水っ子アンケート26-28) 【目標値：児童アンケート3.1以上】	4	○ 互いのよさを認め合う学級風土を醸成するために、よいところ見つけや自分で頑張ったことの発表など発達段階に合わせて学級内で活動を工夫することで、児童の意識も高まっている。		A		
		毎月のいじめチェックリストを実施し、気になる変化やトラブルが明らかになった時、迅速に対応しそれを記録している。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	気持ちを理解してくれる友達を持ち、明るく前向きに学校生活をおくる子ども(生活アン15・18 友達との関係 保アン8) 【目標値：児童アンケート3.1以上、保護者アンケート3.1以上】	4	○ 毎月の学校生活アンケートにおける子ども達のネガティブな反応に対しては、細かなことでもすべて聞き取りを行い、対応してきたことから、明るく前向きに学校生活を送る子どもが増えてきている。		A		
		生徒指導の機能(自己決定・自己存在感・共感的人間関係・安心・安全)を導入し、児童の自尊感情を育む学級経営を行っている。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	得意なことや自慢できることを持ち、自分は誰かの役に立っていると感じ、自分を大切にすることも(銀水っ子アンケート14 保アン3) 【目標値：児童アンケート3.1以上、保護者アンケート3.1以上】	3	○ 生徒指導の4つの機能を意識し、安全・安心な環境づくりを心がけたことが、児童だけでなく保護者の意識においても、児童の自尊感情を育むことにつながっている。		A		
不登校防止	■ 福岡アクション3を実行し、児童のわずかな変化(対人関係・言動)に気づき、すぐに対応・記録・報告を行っている。【目標値：教師アンケート 3.1以上】	学校に行くのを毎日楽しみにしている子ども(銀水っ子アンケート13 保アンケート8・9) 【目標値：生活アンケート3.1以上 保アンケート3.1以上】	3	○ 生徒指導委員会を中心として、児童の状況、児童理解を組織的に進めたことで、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー、関係機関との連携も含めて、適切に対応を進めることができています。		B			
		設定された定時退校日に、18:00までに業務を終了し、18:30までに退校を完了している。(通常は、19:00) 【目標値：教師アンケート 2.5以上】	仕事全体の見直しを持って、その日の業務を限られた時間の中で効率よく進めるタイムマネジメントを行っている。【目標値：教師アンケート2.5以上】	2	△ 前年に比べると超過勤務時間は減少傾向にあるが、45時間以上の時間外勤務者が依然として多い。アイデアを出し合いながら、効率的な業務遂行を進めていく。		A		
働き方改革	■ 業務改善の推進	毎月の業務改善委員会で、改善策を話し合い、全職員で共通理解しながら取り組む。【目標値：教師アンケート 3.0以上】	教職に生きがいを感じ、働きやすい職場だと感じている職員 【目標値：教師アンケート2.6以上】	3	△ 児童の変容への喜びや職員間の関係性から働きやすい職場と感じている職員が多数いるが、その結果に甘えず、業務改善を進め、共通理解を図って進めている。		A		
		アンケート結果が素晴らしい、これからは継続をお願いしたい。 先生方の意識が高く、取組を継続されているので良い結果が出ている。	学校生活を通して、自分のよさや友達のよさを実感できるように体験活動、道徳学習の充実を図る。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果が素晴らしい、これからは継続をお願いしたい。</li> <li>先生方の意識が高く、取組を継続されているので良い結果が出ている。</li> </ul>				
働き方改革	■ 業務改善の推進	アンケート結果が目標値を超えているので、上方修正をしていいと思います。 アンケート結果から、子ども達の学校生活の充実ぶりが伺える。 一人一人の子どもの実態が違うので、関係機関との協力が必要だと思います。	子ども達の主体性、自尊感情を育てていくために、目標設定、挑む、振り返る活動を繰り返す福岡総括メソッドの特徴を教育活動全体で推進する。 不登校、不登校兆候の児童に対して、スクールカウンセラー等による見立てを活かして、その原因と要因を明らかにし、関係機関等と連携した取組を継続して進める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の主体性、自尊感情を育てていくために、目標設定、挑む、振り返る活動を繰り返す福岡総括メソッドの特徴を教育活動全体で推進する。</li> <li>不登校、不登校兆候の児童に対して、スクールカウンセラー等による見立てを活かして、その原因と要因を明らかにし、関係機関等と連携した取組を継続して進める。</li> </ul>				
		アンケート結果が素晴らしい、これからは継続をお願いしたい。 先生方の意識が高く、取組を継続されているので良い結果が出ている。	子ども達の健康への意識を高めることは、共働き世帯も多くなっていることで、非常に大切なことだと思います。引き続き指導ください。 アフターコロナにおいて今後は思い切り体を動かして体力をつけていってほしい。 い。力と同じで二極化が見られる。体を動かす楽しさや喜びを知ってほしいですね。 運動・体力の二極化が進む中で、子ども達が体を動かすことを積み重ねることが、次につながると思います。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども達の健康への意識を高めることは、共働き世帯も多くなっていることで、非常に大切なことだと思います。引き続き指導ください。</li> <li>アフターコロナにおいて今後は思い切り体を動かして体力をつけていってほしい。</li> <li>い。力と同じで二極化が見られる。体を動かす楽しさや喜びを知ってほしいですね。</li> <li>運動・体力の二極化が進む中で、子ども達が体を動かすことを積み重ねることが、次につながると思います。</li> </ul>				

◇ 評価について ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)

・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである

評価計画			自己評価		学校関係者評価		改善計画
領域	評価の観点	評価	結果(成果○と課題△)	評価	コメント	次年度における改善策(案)	
総合的評価	教育課程 学習指導	年間指導計画の作成と実施及び評価	週指導計画案による量的管理および、教室訪問・各種学力調査等結果の評価による質的管理(毎週時数の確認とコメント)	4	○ 主題研究及び学力向上プランの共通実践を基にした授業改善を目指して、学年等で具体化した取組内容を週案に添付し、月毎に自己評価を行い、意識付けを徹底した。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>次年度も主題研究及び学力向上プランの共通実践を基にした授業改善を目指して、取組内容を週指導計画案に明記し、月毎に自己評価する。</li> <li>落ち着いた環境で授業が行える人的・物的環境を整え、児童の安心・安全な学習環境づくりを推進する。</li> </ul>
		効果的な指導方法の工夫	少人数学級編成推進事業、学力アップ、非常勤講師を活用した少人数学習の計画的な実施	3	○ 一人ひとりの子ども達が安心して学習に臨むことができるように、人的配置を工夫した。	B	
	進路指導	「生き方」指導としてのキャリア教育の推進	キャリアパスポートを活用し、自分の現在の姿や取組を通じた自分の成長を見つめさせ、希望や目標を持って生きる意欲や態度の育成	3	○ 学習面・生活面での自分の目標を持ち、月毎に自己評価をして振り返りながら、よりよい自分にしていくという意欲的な姿が見られる。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校教育目標や重点目標の目指す児童像につながる学習面・生活面での自分の目標をもたせ、よりよい自分を目指す意欲を高めた。</li> <li>アフターコロナにおいて、活動目的・子ども達の実態等を吟味し、必要な交流体験等ができるよう教職員や児童のアイデアを生かせる教育活動の創造を行う。</li> </ul>
		望ましい労働観、勤労観の育成(ボランティア意識の高揚)	委員会活動や各行事の実行委員などの体験活動を通じた自己理解の深化、コミュニケーション能力の伸長	3	○ アフターコロナにおいて、教育活動の目的に照らし合わせて、子ども達の実態や社会の状況等を考慮しながら、新たな教育活動の創造を進めてきた。	A	
	生徒指導	問題行動への組織的対応	生徒指導担当者を中心とした、迅速で的確な対応と職員全体での情報共有(月1回の委員会開催)	4	○ 問題行動に対して、原因とその対処を情報共有・共通理解して、組織的に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動の未然防止につなげるために、日常の学級経営において、生徒指導の4つ機能を全ての教育活動において重視する。</li> <li>SSWやSCを講師に招いた職員研修の設定するとともに連携の日常化を意識して取り組む。</li> </ul>
		積極的な生徒指導の充実	生徒指導の機能を活かした各種行事の企画・運営	3	○ 生徒指導の4機能を常に意識して、学級経営・学校行事の企画、運営を行っている。	A	
		教育相談の充実	定期的な教育相談の実施とSC、SSWを活用した教育相談や研修(夏期休業中)の実施	4	○ 各種アンケートの活用はもちろんのこと、SC・SSWの見立てをもとに、一人ひとりの状況に応じた対応を進めている。	A	
	保健管理	保健管理体制	教室換気、採光、トイレ、飲料水等の環境衛生の管理(月1回の安全点検等)	4	○ 関連機関とも連携して、環境衛生の管理に努めている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>今後も養護教諭を中心に環境衛生の管理に努める。</li> <li>朝の健康観察を徹底し、出席状況及び健康状態の把握に努め、保護者との密な連携を図る。</li> </ul>
		児童の出席状況等の把握	出席状況等について、担任、管理職、養護教諭での情報共有を行い、必要に応じて全職員で共有	4	○ 毎朝必ず、一番に出席状況の確認を行い、情報共有を行い、必要に応じて保護者への連絡を行っている。	A	
	安全管理	登・下校時の安全対策	通学路の安全点検を実施(年3回)するとともに、PTA地域委員・見守り隊との連携による危険箇所の把握と迅速な対応	3	○ PTA地域委員や校区の見守り隊との連携を図り、登下校時の安全対策を行っている。登下校時の交通安全についても全校放送や学級指導を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども見守り隊との連携体制の継続を図り、PTAとの連携強化を模索する。</li> <li>毎朝の安全点検と全職員による月1回の定期安全点検を実施し児童の発達段階、行動パターンも考慮した安全点検を行う。危機管理マニュアルの内容の周知徹底を図り、年度当初に救急講習会を実施し、避難経路の定期点検、通報・連絡体制の定期点検を行い非常時に備える。</li> <li>緊急時の児童引き渡し体制については年度当初に保護者と再確認し安全確保の徹底を図る。</li> </ul>
		施設・設備の安全点検の実施	管理職による毎日の校内施設・設備安全点検の実施及び、職員による毎月の安全点検の確実な実施	4	○ 管理職が毎朝の校内施設及び設備の安全点検を実施し、全職員による毎月の安全点検も実施している。	A	
		安全指導の徹底	年3回の避難訓練(地震・火災を想定)と防犯教室、交通教室等を実施するとともに、日常的に指導の実施	4	○ 地震・火災を想定した避難訓練を確実に実施し、日常の安全な生活指導も繰り返し行っている。	A	
	特別支援教育	特別な支援を要する子のニーズに合った指導の充実	対象児童の特性に応じた環境整備、指導体制、指導方法の工夫	3	○ 支援を要する子どもの実態に合った対応をできるように、校内環境の整備と人員配置を工夫している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の子どものニーズに応じた取組をされていると思います。</li> <li>専門的な機関との連携を通して指導体制の充実を図られている。</li> </ul>
		指導体制の整備	SC、SSW、教育相談室、大牟田特別支援学校等の関係機関との情報交換・連携の充実	3	○ 関連機関との連携を図るとともに、必要に応じて保護者との教育相談を実施している。	A	
	組織運営	学年・学級経営の充実	学校の重点目標達成へ向けた学年・学級経営案の作成と実践・評価・改善(年3回)	4	○ 重点目標達成へ向けた学年・学級の実践を定期的に見直す場を設定し、充実を図っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>重点目標達成をいつも意識した学年・学級経営を実施するために、定期的実践の見直しを図る。</li> <li>適性や若年者の登用を積極的に行うなどキャリアアップにつながる校務分掌の工夫をする。</li> </ul>
		校務分掌の機能状況	各校務分掌が組織的に機能し、業務が適切に行われるための行事、学期毎の評価・改善	3	○ キャリアステージに応じた校務分掌、若年教員の業務支援を行っている。	A	
	研修	校内研修の充実	全員が年1回以上、校内研究授業を実施	4	○ 研究テーマに即した授業研究を行っている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の実情にある中で、計画的に進められていると思います。</li> <li>研修会が多すぎて、先生方の疲弊が心配される。</li> </ul>
		キャリアステージに応じた職能研修の充実	講師を招聘し、授業改善へ向けた研修会を実施	4	○ 指導主事を講師招聘し、研修会を実施している。	A	
教育目標 学校評価	教育目標、各教育活動における達成状況	児童による授業評価、保護者による学校評価を計画的に実施し、その結果を公表	4	△ 様々な校内事情もあり、研修参加への呼びかけ等、計画的に進めていく必要がある。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き学力向上プランと研究主題の一体的な推進を図り、取組の日常化を図る。</li> <li>指導主事を講師招聘しての校内研修会を実施する。</li> <li>タブレット等のICT機器の実務研修を進める。</li> </ul>	
	学校評価の実施と改善の状況	各種アンケート結果を基に客観的な学校評価を実施し、その結果を分析を生かした教育活動の改善	3	○ 各種アンケートにより計画的に評価を実施し、その結果をお便り等で公表し、教育活動のさらなる充実を生かしている。	A		
情報提供	各種通信・HP等による、積極的な情報の発信	学級・学年・学校通信の定期的な発行やホームページを用いた、積極的な情報発信	4	○ 各種アンケートにより計画的に評価を実施し、その結果をお便り等で公表し、教育活動のさらなる充実を生かしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の様子・取組を知る機会となっています。</li> <li>アンケート結果で学校の様子が見えてくる、今後も継続してほしい。</li> </ul>	
	各種会合等での情報共有・啓発	学級・学年懇談会を実施するとともに、地域の各種会議・会合における情報提供や啓発	4	○ 客観的評価を基に目標設定を行い、確実な達成に向けた改善を継続している。	A		
保護者・地域との連携	保護者との連携	PTA活動やお父さんクラブとの連携を強化と学校教育への理解の促進、協力体制の確立	3	○ 毎日のMボードの発信等を通して、学校の最新情報や児童の様子を積極的に発信している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域への発信をされることで、地域から支えられていると思います。</li> <li>Mボードが毎日配信されているので、学校の様子がよく分かります。スマホで簡単に見られるのでありがたい。</li> </ul>	
	地域との連携	管理職によるまち協・社協・民生委員会、教育力向上・地域の行事に関する実行委員会等への積極的な参加	3	○ アフターコロナにおける実施方法について、保護者と連携を図りながら、PTA活動を実施している。	B		
教育環境整備	学校施設の整備状況	特色ある教育活動の実施へ向けて、校内設備の整備や掲示物の工夫	3	○ 地域の活動に積極的に参加しながら、学校へもGTとして協力を求める等、連携を図っている。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的をはっきりさせて、そのために必要な活動内容を取捨選択して、新たな教育活動の展開を模索する。</li> <li>校区全体で風通しを良くし、安心・安全な町にできるように学校としてできる役割を考える。</li> </ul>	
	教育備品の整備状況	計画的な配当予算の執行による、新規備品購入や修理・修繕の実施	4	○ 校内の美化に努めるとともに、子供の自己肯定感、意欲の向上につながる掲示物等の充実に努めてきた。	A		
					○ 計画的な予算執行と共に児童の安全に係る事柄については最優先に対応している。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>校内美化に努めるとともに、子ども達の学習に役立つ校内整備に努める。</li> <li>児童の安全確保に関しては迅速かつ確実に対応する。</li> </ul>

◇ 評価について ・【自己評価】 4：目標達成(90%以上) 3：ほぼ達成(70%~90%) 2：もう少し(60%~70%) 1：できていない(60%未満)  
・【学校関係者評価】 A：自己評価は適切である B：自己評価は上方修正すべきである C：自己評価は下方修正すべきである